

もう中干しの時期です！

- 茎数は、低温のため平年より少ない状況です。
- しかし、5月中旬移植の稲は、すでに必要茎数を確保していますので、中干しを開始しましょう。
- 5月下旬移植の稲は、6月末から中干しを実施しましょう。

1 中干しの開始時期

- ・ 6月23日の調査結果によると、5月中旬に移植した稲は**必要な茎数（380本/m²）**を確保しています。
- ・ 稲の茎数を確認のうえ、中干しを始めましょう。

6月23日の調査結果

調査地点	品種	移植日	m ² あたり茎数 (本)	必要な茎数 (本)	(参考) 平年比
洋野町宿戸	いわてっこ	5月18日	457	310~380	71
洋野町阿子木	いわてっこ	5月17日	466		86
久慈市大川目	いわてっこ	5月21日	383		-
野田村泉沢	いわてっこ	5月24日	343		80

なぜ中干しを行うの??

- ・ 必要以上に分けつした茎は、穂にならず栄養のムダづかいとなります。
- ・ 水を落とすことにより、これ以上の分けつを抑えるとともに、土中に酸素を供給して根の活力を維持できます。

2 中干しの終了時期

- ・ 穂が出来る時期（幼穂形成期；7月中旬）は、低温に弱いので、水を入れて保温することが必要です。
- ・ 7月10日までに中干しを終わらせ、**入水**しましょう。



幼穂形成期以降の管理については、7月5日頃にお知らせします。

※このような情報をタイムリーに入手することに役立つ、メール配信をしています。
ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp（普及センター組織アドレス）まで「氏名」、
「住所」、「電話番号」を送信していただければ登録できます。ぜひご利用ください。

お問合せ先：JA 新いわて久慈営農経済センター（電話 0194-52-1318）
久慈農業改良普及センター（電話 0194-66-9683）